

CaseStudy 関西学院大学 アイアンポートシステムズ

スパムメールを一網打尽 IronPortのアプライアンスが威力発揮

スパムメールによる被害が拡大するなか、関西学院大学はアイアンポートシステムズのセキュリティアプライアンス「IronPort Cシリーズ」を導入。スパムメールの大幅な削減に成功した。



学校法人関西学院
情報システム室
永井良二氏

関西学院大学は、2004年度から全学生に入学時にシステム利用IDとeメールアドレスを付与。学内のPCを利用したり、学生連絡や履修登録などにこのIDを利用し、学生生活に欠かせないものとなっている。

情報システム室の永井良二氏によると、「現在、本学の受信メールは1日あたり約8～10万通。総数の増加に伴い、スパムメールも急増している」という。そこで西宮上ヶ原キャンパスのゲートウェイサーバーが更新時期を迎えていたのを機に、抜本的な対策に乗り出すことにした。

性能と品質は基準以上

永井氏はセキュリティアプライアンスの資料を集めるとともに、各社の製品説明セミナーにも積極参加。そのなかで、IronPortの真剣な企業姿勢が目止まったという。

他社との違いは、実際の機器の運用試験にも表われた。永井氏が想像した以上の性能を発揮し、「約1カ月間の評価で、スパムメールと思われる

ものの大半を排除できる見通しが立った」という。

就職活動中の学生には企業や関連サイトから大量のメールが送信されてくる。これらがスパムやウィルスメールと判定されて学生の手元に届かないという事態になっては、就職活動の妨げにもなりかねない。IronPortならこうした条件をクリアしながら、スパムメールを排除できると判断したのだ。

「アプライアンス製品の場合、WebベースのGUIを持つものが多く、そこにセキュリティホールが残っているケースが珍しくない。IronPortにはそうした瑕疵もなく、安心して導入に踏み切れた（永井氏）という。

さらに関西学院大学では、導入時だけでなく運用開始後も、定期的にサーバーの脆弱性検査を実施している。今回のアプライアンスサーバー導入に際しても、評価期間中から脆弱性検査を実施したが、IronPortは極めて優秀な成績で同大学の基準をパス。このことも採用理由の1つになったという。

SenderBaseが高精度でスパムを検出

IronPortが高い評価を得ることができたのは、世界最大の電子メールトラフィック監視サービス「SenderBase」と連携しているからだ。日次50億超のクエリを収集する巨大データベースを利用することで、不審なメール送信者の送信パターンを高い精度で捉え、スパムメールを検出できるのだ。

「しきい値は低めに設定しているが、明らかにスパムと判るものは完全に排除できる。グレーなものはマーキングして利用者が判断できるようにする。今後ノウハウを積み重ねれば、スパムメールをかなりの確率で排除できると見ている」と永井氏は語る。

今回、メール機能やセキュリティ機能をアプライアンスに集約したことで、システムの管理工数も大幅に削減された。また、初期設定が容易な点は、導入期間の短縮に貢献。運用フェーズでは充実したレポート機能が重宝されているという。

IronPortは、関西学院大学のメールセキュリティを堅固に守っている。

お問い合わせ先

アイアンポートシステムズ株式会社
〒107-6012 東京都港区赤坂1-12-32
アーク森ビル 12F
TEL 03-4360-8216
URL <http://www.ironport.com/jp>



関西学院大学

導入前(メールサーバー6台)

西宮上ヶ原キャンパス:メールGWサーバー×2台、アンチウィルスサーバー×2台

神戸三田キャンパス:メールGWサーバー×2台

1日8～10万通のメールの20～30%がスパムメールで排除に苦慮

導入後

西宮上ヶ原キャンパス/神戸三田キャンパス

IronPort C300×2台(1台バックアップ用)に集約、運営コストとも削減効果大

IronPort SenderBaseの活用で

スパムメールと判断したメールは完全排除が可能に

グレーメールにはマーキング付記が可能に

標準ソフトで豊富なレポートを活用、運用がスムーズに